

大阪実行委員会ニュース

連絡先：大阪市中央区谷町7丁目3-4 新谷町第3ビル210号室 大阪原水協 TEL(06)6765-2552

賑やかに 楽しく “歌う” 平和行進



戦争の実態伝える教育実践 物語「一つの花」

平和行進3日目は晴れた空の下、泉佐野市役所 貝塚市役所 岸和田市役所 忠岡町役場 和泉市役所というコースを延べ約600人が歩きました。泉佐野市役所での出発集会で泉佐野教職員組合の中瀬さん(写真左)が、教育現場での平和学習の実践として「一つの花」という小学校4年生の国語の教科書に出てくる物語について語りました。物語は、第2次世界大戦中、ひもじい思いをし、「一つだけちょうだい」を口癖とする女の子が、戦地へ出征する病気がちの父に彼女は「一つだけちょうだい」というと、父が差し出したのは一輪のコスモスの花。それっきり父は帰ってこなかった、というもの。愛情を踏みこむ戦争の事態を子供たちに伝えていると強調したうえで、中瀬さんは「沿道の方々に平和の種を蒔いていこう」と呼びかけました。



に平和の種を蒔いていこう」と呼びかけました。

歌、演奏、コール、スピーチ ・・・多彩なアピールが町に響く

この日の行進の特徴は、何といたっても歌や演奏、シュプレヒコール、スピーチなど、多彩なアピールで沿道の市民に働きかけたことです。何人もの人々が「広島の在る国で」「沖縄を返せ」「翼をください」など、さまざまな演奏や歌を熱唱。

また、参加者が次々にスピーチやコールをしました。とくに新婦人の貴志さんが「安保法制、ムリムリ、若者を戦場に、ムリムリ」とコールする「ムリムリコール」は大いに盛り上がりました。また、ある若い高校教師は「核兵器と私たちは共存できない、みんなの力でなくす！」と力強くスピーチ。参加者一人一人が、自分たちの思いをいろいろな表現で、楽しみながら沿道の人々に示した一日でした。

サニヨさん「ミンダナオでも平和行進を」

岸和田・忠岡で市長が新署名協力 岸和田・貝塚・忠岡から協賛金も

A.G.サニヨさん(写真左下)が、日本の平和行進に触発され、忠岡町での出発集会で「フィリピン・ミンダナオでも平和行進をしたい」と表明するという一幕も。また、この日は岸和田市長、忠岡町議会議長・町長からヒバクシャ署名への協力や、岸和田市、貝塚市、忠岡町から協賛金もいただくなど温かい自治体側の対応もありました。

